



学習評価で大切にしたいこと

音楽を形づくっている要素を選択して評価する

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など）」は、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な要素を選択して評価します。

言語活動で児童の姿を想定して評価する

表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていく音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。実際の評価に当たっては、表現活動や言語活動等において、どの場面で、どんな姿が見られれば「おおむね満足できる」状況と評価するのかを想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

表現活動や鑑賞活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

第3学年及び第4学年「A表現 歌唱」

題材の評価規準例
曲の特徴を捉えて歌う学習（I）に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、学習内容に応じて知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないように留意する必要があります。また、知識と技能を一体的に評価する場合があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的に評価し、適切な場面で総括的に評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させていく指導に生かす評価と関連させ、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けます。

(例) 第4学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材の評価規準

◇ 題材名

曲の特徴を感じ取って歌おう

楽曲名「とんび」 作詞：葛原しげる 作曲：梁田貞

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。[知識] ②思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。[技能]	①旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを聴き取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①曲の特徴を捉えて歌う学習に興味をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1	・歌詞の表す様子や旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。				
2	・旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、それらを生かして表現を工夫する。	○ (知)	○ (本時)		[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素を聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
3	・第1～2時の学習を生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸の仕方や姿勢に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	○ (技)			[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (観察・ワークシート) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価

主体的に取り組む態度の観点に照らし、継続的に見取り、支援の必要な児童には旋律の変化に目を向けるよう助言する等、指導に生かします。

記録に残す評価

旋律の変化等に着目し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについての思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素(旋律、フレーズ、反復、変化など)を聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、ワークシートに記述(例:旋律の動きが少ないから、とんびがゆったりと飛んでいる様子を表している)し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中の評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたい、思いや意図をノート等にも書いている。



学習評価で大切にしたいこと

「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）」は、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を選択して評価します。

生徒の具体的な場면을想定した学習評価

音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。例えば、表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていきます。その際、「おおむね満足できる」状況を想定し、授業をデザインすることがポイントとなります。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるものを評価するものではありません。主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるよう指導を工夫しましょう。

第2学年及び第3学年「A表現 歌唱」



題材の
評価規準例

歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わい（I）に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、題材単位では、その学習内容によって知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることに留意する必要があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況进行评估します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について、題材のはじまりから評価していくことが大切です。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業の中で常に生徒の状況を把握し、指導を行う中で、評価規準に基づいて生徒一人一人の状況を記録に残しますが、評価の結果を記録に残す場面をねらいに応じて精選します。

(例) 第2学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材名

歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。[知識] ②創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。[技能]	①「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	①「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全4時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
2	・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、「荒城の月」を歌唱する。				
3	・「荒城の月」と対比しながら「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。	○ (知)	○	○	[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造等との関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現を創意工夫して表現している。
4	・曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ・題材全体の学習の振り返りをする。	○ (技)		○	[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (ワークシート・観察) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価

主体的に取り組む態度について継続的に評価します。支援が必要な生徒には風景写真を示す等、題材に関心をもち、旋律から雰囲気を感じ取らせる等、指導に生かします。

記録に残す評価

知覚・感受したことに触れながら、どのように歌いたいかについて、思いや意図をもつ過程や結果の状況を記録します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素(リズム、速度、旋律の音のつながり、強弱)を知覚・感受し、そのこととの関わりについての考えをワークシートに記述(例:最後のフレーズは、残念な気持ちをppやrit.に込めて歌いたい)し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中での評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたいか、思いや意図をノート等にも書いている。